

浦ノ内湾における赤潮発生予察情報

【概要】

- ・ 令和4年4月18日の環境調査で、中学校前定点におけるカレニア・ミキモトイの細胞密度が今季初めて1 mLあたり100細胞を超えました。
- ・ これまでの知見から、細胞密度が100細胞/mLを超えると、平均1～2週間後に赤潮が発生する傾向があります。
- ・ 一方、現時点では水温が深度5mで18.8℃と低いことから、急激な増殖にはいたらない可能性があります。また、過去、当該プランクトンの赤潮が4月に発生した事例もありますが、今後の状況に注意してください。
- ・ 今後、当該プランクトンにとって好適な環境が続けば、5月ごろに赤潮が発生する可能性が高いと考えています。

【赤潮発生予察について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予察マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予察を情報提供することとしました。

【カレニア・ミキモトイの予察マニュアル】

- ① 海水中のカレニア・ミキモトイの遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が100細胞/mLを超えると、平均1～2週間で赤潮が発生
(これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長80日)
- ③ 発生時期が早い(例えば5月中の発生)と、大規模な赤潮になりやすい
(大規模：細胞密度が高い、発生期間が長い)
- ④ 深度5mの水温が20℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

※この予察情報は、本年度から提供を開始するもので、今後精度向上につとめていきます。予察どおりにならないことも考えられますので、現場の状況に十分注意して、養殖作業を行ってください。

以上